

こんにちは！

はるのクリーンサービスの木戸です！

カビが…。いつも掃除してるのにどうして出てくるの？

そんな嘆きの声が聞こえてきそう…

今回はカビについてのお話です！

カビの種類と特長

カビ菌の種類は細かく分けると、約3万種類もあるそうです。

新しいカビ菌も頻繁に発見されているようです。

気が付くと食べ物やサッシ、お風呂場などにカビが生えていることがありますね。

見つけた時のショックは言葉になりません。カビにはすごく不潔なイメージが

ありますが、一方ではチーズなどそれを活用した食べ物もあります。

性質上、人体にどういった影響があるものか、イマイチよくわかりませんよね。

種類も様々で、食べ物によく付く青カビや、お風呂で見かける赤カビ、ゴムパッキンなど

につきやすい黒カビといったものがあります。

そこで今回は、青カビ・赤カビ・黒カビの違いについて詳しく紹介します。

青カビとは？

ブルーチーズなどで知られるのが青カビです。

他にも、抗生物質のペニシリンなどに活用されています。

青みがかかった色が特徴ですが、白っぽいものや緑色のものもあります。

空中に孢子がたくさん飛んでいるので、パンや餅などの食べ物によく

付着して繁殖します。

健康な人へ病気を感染させるといったことはあまりありませんが、

一部に毒性の強い種類の青カビも存在します。

人への影響は少ないですが、農産物や畜産物への影響は大きく、青カビ病と

いってみかんなどの果物や米にも発生しやすいです。

ブルーチーズは、青カビを使い発酵させて作るものですが、だからといって

食物についたカビが全て食べられるということではありません。

また、梅雨時期に畳に生えることも多いですが、お酢を使って拭き上げるのが最も効果的です。

赤カビとは？

赤カビは、お風呂場のぬめりやバスタオルなどにも繁殖するもので、

赤やピンク色が特徴です。他にも、冷蔵庫で放置してしまった瓶詰の食材や、

古いご飯などにもよく繁殖します。

お風呂の赤カビは、スポンジなどでぬめりを取るように洗うと、見た目は綺麗になります。ただし、しっかり根を張ってしまっているのが、根本から取り除いているかという点、多少疑問が残ります。

赤カビによる人体の影響は、体内に入ることによって嘔吐や下痢の症状が出てしまいます。

黒カビとは？

お風呂やキッチンのゴムパッキンや、壁紙の隅っこなどに生えやすいのが黒カビです。湿気のもりやすいところを好むため、窓際やお風呂場、エアコンなどが発生ポイントになりやすいです。

他のカビとは性質にも違いがあり、低温や乾燥にも強い特徴を持ち、清潔を保つことが何よりも予防に繋がります。

毒素を大量に持つわけではありませんが、アレルギー喘息などの原因に成りかねません。

黒カビが多く見られるような場合、室内の換気、空気清浄を徹底する必要があります。

もし発生した時には、塩素系漂白剤を使用して除菌することが大切です。

どうしても、漂白剤が付着しづらいパッキンや隅っこにできやすいため、キッチンペーパーに漂白剤を染み込ませて貼っておくと効果的に落とせます。

根が深くまで張りやすいので、漂白剤を塗付後、30分以上は放置しておいた方が良いでしょう。

片栗粉と漂白剤を練り合わせてペーストにして、液垂れしないように塗付する方法も有効です。

まとめ

気密性の高い住宅が多くなると同時に、カビの発生は増えているのではと普段の作業から感じています。浴室を出る前にシャワーで周囲をざっと流し水切りワイパー等で軽く水気を除去するだけでもカビ菌抑制にはかなりの効果があります。

カビ菌は清潔を保つことで繁殖を防げますので、こまめな掃除や換気を心がけて、発生防止に努めましょう！

では、また！